

このたびの熊本地震に際し、亡くなられた方のご冥福をお祈りします。また、被災された方へお見舞い申し上げます。

# 熊本地震 緊急支援開始



全壊の家屋が至る所に（熊本県熊本地方：4/16 撮影）

JEN（本部：東京都新宿区）は、甚大な被害をもたらしている「平成 28 年熊本地震」の被災者緊急支援に向け、東京本部から職員を派遣しました。

4月15日（金）午後、被災地に到着した職員2名（浅川葉子、廣瀬美紀）は、熊本市や益城町を訪問し被災の情報収集を行いました。15日時点では、地震により大きな被害を受けた地域は、熊本市や益城町など一部の地域に集中していました。また、余震は続いていたものの、

被害の比較的少なかった周辺地域では多くの店舗が営業を続けている状態でした。

16日午前1時頃にマグニチュード7.3の大規模地震が発生し、状況が一変しました。この地震により被害が広範囲に広がり、最初の地震では被災しなかった人びとも、身の安全を確保するために避難所に押し寄せ、熊本市内で約9万人が避難する事態となりました。



益城町役場での物資配布の様子（4/15 撮影）



熊本市内の倒壊家屋（4/16 撮影）

## 熊本地震



2016年（平成28年）4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生。さらに、その28時間後の4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3、最大震度6強の地震が発生しました。その後、熊本県阿蘇地方や、大分県でもマグニチュード5を超える大きな地震が多発し、熊本県だけでなく、福岡県や大分県など九州の広い範囲に被害が及んでいます。



南阿蘇村への道（4/17撮影）

## 食糧・物資を配布

4月16日、調査隊は甚大な被害を受けた熊本市及び益城町、また土砂崩れ等で道路が寸断され、橋が崩落するなどして孤立している南阿蘇村を急ぎよ調査しました。調査の過程で、JENは、地滑りなどによりアクセスが困難になっている地域への支援を検討。支援が行き届いておらず、被災された住民の方々自身が炊き出しを行っていた南阿蘇村に食糧や物資を配布しました。

## これから必要とされる支援とは

地震から5日経った現在も余震は続いています。熊本市においては当初の想定よりも早く水道や電気が復旧しつつあり、支援物資も被災者の手に届き始めています。JENは、刻々と状況やニーズが変化している中で、迅速・柔軟な緊急支援を実施するために、県や区の行政、社会福祉協議会などとも連携しつつ情報収集しながら、支援が届きにくい地域を最優先にきめ細やかな支援活動に取り組みます。



大きな岩が崩れ落ちていました。（4/17撮影）



避難所での物資配布の様子  
（4/19 昼食配布）

## 今、必要な支援を。きめ細やかにニーズにこたえる。

「東区は、熊本市内で益城町に最も近く被害が大きい地域です。ここには、52箇所以上開設されている避難所から様々なリクエストが送られてきます。その量の多さから区役所の職員だけでは対応しきれず、JENは支援を依頼されました。4月18日、同区内7か所の避難所および非公式避難所に支援物資を届けました。当初、避難所指定されていなかった花立公園憩いの家には、この時30名ほどが避難していたため、毛布とおかゆを30名分を配布、尾ノ上小学校の避難所では、マスク1箱とウェットティッシュ10個など、不足している細かいニーズに応えるサポートを行いました。」

（事業責任者：廣瀬美紀）

# 熊本地震被災者支援の緊急募金にご協力ください。

皆さまからのご寄付は、寄付金控除の対象です。  
最大で約40%が所得税の税額控除となります。

※控除額は寄付金額や年間所得額によって異なります。詳しくはホームページをご覧ください。



**生きるちから マンスリーサポーター**  
あなたの毎月の支援で、世界の人びとの、生きる力をサポートします。



**郵便局から**  
00170-2-538657  
口座名 JEN



**遺贈寄付**  
ご自身の財産や大切な方の遺産を、JENが支援する世界中の人たちへ、確実にお届けします。



**インターネットから**  
クレジットカードでご寄付いただけます。  
（VISA、MASTER、JCB、AMEX）



特定非営利活動法人ジェン(JEN)  
東京本部事務局

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-16 第二東文堂ビル7F  
TEL: 03-5225-9352 FAX: 03-5225-9357

ホームページ  
<http://www.jen-npo.org>

NPO JEN

検索